

すこやかおやつ教室が開催

2月13日(木)、なみえ創成クラブハウスにおいて、すこやかおやつ教室が開催され、7組の親子が参加しました。教室では、おやつに関する講話や試食、栄養士による個別相談が行われました。



日本赤十字看護大学が健康支援

日赤なみえ保健室（なみえ交流館2階）では、いわき市に避難している皆さんを対象に健康支援を行っています。

▷開館日時

月曜日～木曜日・9時～16時

☎日赤なみえ保健室

TEL 080(9022)5639

赤ちゃんのために 風しん予防接種を

町では、赤ちゃんの「先天性風しん症候群」予防のため、風しん抗体検査およびワクチン接種の費用を助成しています。

▷対象者

浪江町に住民登録がある①妊娠を希望している女性、②妊娠を希望している女性の配偶者、③妊娠している女性の配偶者。なお今までに、同検査を受けたことがある人、風しんワクチン（麻しん風しん混合ワクチンを含む）を2回接種した人、風しんにかかったことが明らかな人は除きます。

▷助成金額（全額）

「風しん抗体検査費用」および「風しんワクチン・麻しん風しん混合ワクチン」のいずれか1回の接種費用



☎健康保険課健康係
TEL 0240(34)0249

かもめっ子クラブ （親子あそび教室）

4月以降は、新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえ、開催の可否を決定します。対象者には開催案内を送ります。ご理解をお願いします。

犬の登録と 狂犬病予防注射

生後91日以上の犬を飼っている人には、生涯1回の登録と毎年1回の狂犬病予防注射の接種が、狂犬病予防法により義務付けられています。

犬を飼うときは 登録を

（新規登録手数料3,000円）
犬を飼うときは、30日以内（生後間もない場合は、生後90日を経過した日から30日以内）に飼い犬の登録をしてくださいます。その際に交付された鑑札は、飼い犬の身に付けてください。なお、犬が死んだときや飼い主の情報が変わったときは、その都度、届け出てください。

飼う犬の登録は 所在地で

犬の所在地などが変わったときは、所在地の市区町村に届け出なければなりません。例えば、浪江町に登録のある犬を浪江町以外で飼う場合、所在地を変更する必要があります。鑑札を持参の上、犬を飼育している所在地の市区町村で手続きしてください。新たに犬を飼う場合も同様です。

狂犬病予防注射は 毎年1回

登録済みの犬の飼い主には、4月上旬に集合予防注射の案内を封書で送付します。当日、必要事項を記入した問診票を持参の上、お越しください。
なお、集合予防注射には1頭につき3,250円（注射料金2,700円・注射済票交付手数料550円）掛かります。
また、集合予防注射を受けられない場合は、動物病院（料金は各病院で要確認）で受けてください。動物病院で発行された「狂犬病予防注射証明書」を除染環境係に提出することで、注射済票の交付（手数料550円）を受けられます。

◆実施日

4月23日(木)

◆時間・場所

9時30分～10時
浪江町役場
13時30分～14時
二本松事務所

☎住民課除染環境係
TEL 0240(34)0228

高齢者肺炎球菌 ワクチン接種が無料で

死亡原因3位である肺炎のうち、その要因の3割とされる肺炎球菌は、唾液などを通じて飛沫感染し、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を引き起こす場合があります。町では、以下の年齢で一度も同ワクチンを接種したことがない人に限り、接種費用を全額助成します。

▷対象者（浪江町に住民登録がある人）

- 65歳（昭和30年4月2日～昭和31年4月1日生まれ）
- 70歳（昭和25年4月2日～昭和26年4月1日生まれ）
- 75歳（昭和20年4月2日～昭和21年4月1日生まれ）
- 80歳（昭和15年4月2日～昭和16年4月1日生まれ）
- 85歳（昭和10年4月2日～昭和11年4月1日生まれ）
- 90歳（昭和5年4月2日～昭和6年4月1日生まれ）
- 95歳（大正14年4月2日～大正15年4月1日生まれ）
- 100歳（大正9年4月2日～大正10年4月1日生まれ）になる人
- 60歳以上65歳未満で、心臓・腎臓・呼吸器の機能に障がいまたはヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に障がい（身体障害者手帳1級に相当する程度の障がい）のある人

▷接種期間

4月1日(水)～令和3年3月31日(水)

▷接種方法

- 県内在住の人**（対象者に4月中に郵送する予診票を使用）
直接医療機関に予約し接種（窓口負担なし）
- 県外在住の人**
避難先の市区町村に確認が必要です。無料で接種できない場合、実費支払い後、町で費用を負担します。

うけどんの

健康知恵袋



4回
シリーズ
だよ

たばこと健康 （第1回）

たばこの煙には「タール」と「ニコチン」が含まれています。

多くの発がん物質を含むタール（ヤニ）を吸い込むと、人の細胞に吸着し、歯は黄ばみ、肺を黒くします。黒くなった肺は、機能が低下するため、呼吸が苦しくなります。

また、ニコチンには強い依存性があり、不足するとイライラし、脳が欲しがるため、喫煙を繰り返します。さらにニコチンが交感神経系を刺激することで、血管が細くなり、血圧が高くなる原因にもなります。